

米国市場に於ける道材合板の利用動向*

河村直紀

世界最大の合板生産国であり、輸入国でもあり、又消費国である米国合板市場の動向が各国の合板業界に大きな影響を及ぼすことは勿論であるが、日本の合板輸出の面から見ても1965年総輸出10億4千万平方呎の約74%、7億7千万平方呎を米国市場に向け、特に北海道合板の如く全生産量の70%以上を此の市場に輸出している現状から、その影響力の大なることが伺えるのである。日本のラワン合板輸出が全生産の約10%程度に過ぎぬ状態と異なり、全生産の70%以上の需要を米国市場のみに依存している北海道合板業界にとっては、この市場に於ける需要動向が業界の推移に直接関連し、米国市場の動きが業界の発展存亡の鍵を握っていると申しても過言ではないのが現在の実態である。

1. 米国の合板生産、輸入及び消費の状況

米国にて生産される合板の大部分はDouglas Firを主原料とし、太平洋岸北部地域ワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州北部で生産される軟木合板であるが、最近数年間は年々約10億平方呎に及ぶ飛躍的増加を続け1965年には全米167工場により約126億平方呎(3/8"ベース)に達している。軟木合板生産の面で最近特に注目すべきことは南部諸州アーカンソー州、テキサス州、ルイジアナ州、ミシシッピ州を中心としたSouthern Pineによる合板生産の増加状況である。1964年アーカンソー、テキサス両州の4工場による約95百万平方呎の生産が1965年には14工場405百万平方呎と増加、更に今年1966年には工場数26工場に増設され、その生産量も約800百万平方呎に達するものと思われる。

硬木合板は現在190余工場により約20百万平方呎の生産があり、アパラチアン山脈のまたがる地域南北カロライナ州、バージニア州、テネシー州を中心として約80工場、ウイスコンシン州を中心とした五大湖地域20余工場、ワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州の太平洋岸地域に約40工場と夫々生産の中心をなしている。

硬木合板の樹種別生産状況としてはカバ合板が全体の約30%強6億余平方呎を占めており最近の硬木合板生産増加の主体となっている。ガム合板は約12%2億5千万平方呎の生産量となっているが1961年に約20%

であった状態から次第に減少傾向を示している。更にラワン合板として約3億平方呎の生産が記録され1961年の生産1億8千万平方呎から可成り増加している。以上三樹種が全生産の約60%を占め、その他樹種としてはウォルナット、チェリー、オーク、エルム等であるが、最近米国自体の原木が各樹種に亘り減少傾向にあると云われている反面カナダよりカバ単板約8億平方呎の輸入、フィリッピンを中心にラワン単板約6億平方呎、その他アフリカ西部諸国、ブラジルを主とした単板約5億平方呎計19億平方呎に達する単板輸入の状況からみて、米国における硬木合板生産原料として輸入単板が可成り高いウェイトを占めているものと推測されるのである。

米国で生産される硬木合板は厚さ1/4"以上のウォールパネルがその中心と思われ、1964年のインダストリコン社の調査報告によるとドアースキン生産は可成り減少、ウォールパネルとしてはカバが約60%と主体をなし、ウォルナット約15%、チェリー、オーク、エルム等約25%となっている。

米国は約30余国から合板を輸入しているが、1961年輸入約11億平方呎から、1965年約21億平方呎と10億平方呎の増加となっている。主要輸出国は日本、台湾、フィリッピン、韓国、カナダ、フィンランドの六カ国で1965年総輸入の約96%がこの六カ国からの輸出となっている。輸入樹種別状況は1965年総輸入21億平方呎の内、ラワン16億平方呎(76%)が日本、台湾、韓

*10月25日、旭川市拓銀ビルで開催された当協会の総会の特別講演として発表されたものを再録した。

第1表 米国合板生産、輸入、消費状況推移

年度	国内生産		A 輸入	B 消費	A/B %	日本からの輸入	
	軟木合板	硬木合板				全国	北海道
1961	8,577	1,412	1,109	2,184	51	660	138
1962	9,216	1,625	1,451	2,666	54	740	169
1963	10,216	1,778	1,629	3,030	53	739	209
1964	11,678	1,980	1,946	3,541	55	680	234
1965	12,646	2,200	2,130	3,900	55	768	257

単位；百万平方呎：生産、消費；フォーレストインダストリー
輸入；商務省統計，E：筆者見積

国、フィリッピンから、カバ2.7億平方呎（13%）が日本、カナダ、フィンランドから、セン1億平方呎（5%）が日本からの輸入で以上三樹種が全体の約94%と大部分を占めている。上記5ヶ年間の輸入増10億平方呎に対しラワン8.5億平方呎、カバ1.4億平方呎の増加となっており、両樹種の増加が米国合板輸入増加の殆んど全てとなっている。カバ合板は1961年上記三国からの輸入1.2億平方呎から1965年2.7億平方呎とラワン合板輸入を除く硬木合板輸入の約55%と増加したのであるが、三国夫々の出荷の推移を見ると、1961年には各国が殆んど同量の約4千万平方呎であったが、1965年には日本、フィンランドが各々約1億余平方呎と2.5倍の増加を示したのに対し、カナダからは約1.5倍の約6千万平方呎の伸びに止まり、更に1966年1~6月の輸入量では1965年の日本39%、フィンランド38%、カナダ23%の占有率が日本35%、フィンランド44%、カナダ21%とフィンランドのみが著しく伸長を示し、日本、カナダの符滞を示している。カナダからの輸入は1953年約7.2千万平方呎をピークとして1964年約6.5千万平方呎、1965年約6.1千万平方と減少傾向が伺えるのであるが、その原因は判然としないがドアースキン市場で直接北海道カバ合板と競合関係にある現状から注目される点である。

セン合板は数年間1億~1.2億平方呎を維持しラワン分板を除く硬木合板輸入の約20%を占め、単独樹種としてはカバ合板に次いで主要樹種となっている。ラワン、カバ、セン以外の樹種としてはシナ、タモ、エルク、オーク、ポプラ、ローズウッド、チーク、ウォルナット、リンバ等でその内北海道材合板は約40%を占めている。

以上の如き米国の生産、輸入の状況が消費の状態を表わすものであるが、硬木合板の消費は1961年約21.8億平方呎から1965年約39億平方呎と年々4~5億平方呎の増加を辿り、この増加に対する供給は自国生産増約6億平方呎、輸入増約10億平方呎と漸次輸入の依存度を高め、1965年全消費に対し輸入が約55%となっている。前述の如く自国の硬木合板生産が輸入単板によるものが可成りの数量を占

めている点から推しても今後の米国合板消費増に対する供給源として輸入の依存度を益々高めてゆくものと思われる。輸入の樹種別状況及び自国生産の樹種別状況から推して米国の硬木合板消費の樹種としては約50%程度がラワン合板、次いで約23%程度がカバ合板、その他ガム、セン合板が主要樹種と思われる。

2. 北海道合板の米国市場への供給状況

米国の合板消費増に伴う輸入増に対し日本からの輸入はラワン合板が1961年の4.9億平方呎から1965年4.5億平方呎へと約10%減少したのに対し台湾は約4倍の4.7億平方呎、フィリッピンが約2倍の3.4億平方呎韓国が約20倍の激増で3.1億平方呎と増加したために、日本の占有率も1961年約60%が1965年約36%に1966年1~6月では約31%と低下しているが、北海道材合板の場合はラワン合板の減少に反し、1961年1.4億平方呎から1965年2.5億平方呎と年々着実な増加を辿りラワンを除く硬木合板輸入の約50%を占めるに至り、此の期間ラワンを除く硬木合板輸入増約1.8億平方呎の内北海道材合板の増加1.1億平方呎、フィンランド合板の増加約6千万平方呎と両国の増加が殆んどを占めている状況である。従って輸入面から見ると道材合板は約12%と可成り高いウェイトを持っているが、硬木合板全消費量から見ると約6%に過ぎないのである。

道材合板を代表してきたセン合板はラワン合板を除く輸入硬木合板の約20%を占めているが、カバ合板を主として他樹種合板が夫々の伸びを示しているのに対し、数量に於て1953年の約1.2億平方呎をピークとして1965年1.08億平方呎と停滞し、従って道材全輸出に占める比率も1961年63%、1962年69%、1964年42%、

1966年1～6月は37%へと低下して来ている。カバ合板は前述の如く米国のこの樹種に対する需要増に伴い、その数量に於ても比率に於ても顕著な伸びを示し、1961年4千万平方呎約27%が1965年1.05億平方呎約41%とセン合板と殆んど同量に達し、更に伸長の傾向を示している。シナ合板も1961年約8百万平方呎から、1965年27百万平方呎と増加、同期間にナラ18百万平方呎から9百万平方呎その他タモ、ニレで約7百万平方呎増加を示している。

日本の合板がサンフランシスコを中心としてカリフォルニア地域から次第に南部、東部へと拡大して来た状況は第2表が示す様に最近では当初の太平洋岸地域を主体に輸出されていたのが次第に南部、大西洋岸にそ

第2表 全国および北海道合板仕向先別出荷状況(%)

出荷先地域		全 国			北 海 道	
		1961	1963	1965	1964	1965
太平洋岸	北 部	26	21	22	16	25
	カリフォルニア	34	38	24	54	34
大西洋岸	南 部	17	22	26	20	27
	東 部	23	19	28	10	14

全国；日本合板輸出組合統計
北海道；検査証明集計

の主体が移行し、特に南部地域の増加が著しい。此の状況と同じ様に北海道材合板の出荷地域も1964年約1.3億平方呎と全量の約54%が向けられたカリフォルニア地域が1965年には8.8千万平方呎、全体の約34%に激減、一方太平洋岸北部地域が16%から25%、ガルフ地域が20%から27%、大西洋岸地域には10%から14%と夫々増加し、最近の地域別需要の状況を表わしている。この様な地域別需要の推移は全体的な北海道材合板の需要拡大によるものと思われるが、一方各地域毎の経済状態に伴う合板需要の背景が夫々の地域によって異なる状況にあったことをも示すもので、米国の合板需要状況を全米的、総括的な姿で見ると、地域別に判断することが必要なことを示すものである。

3. 米国の硬木合板需要部門別状況

米国の硬木合板需要部門を大別するとドア部門、ウォールボード部門、モビールホーム部門及びキャビネ

ット、家具を主としたその他部門の4部門に分けられる。

日本からのラワン合板は1961年ドアスキンが約64%、その他ストックサイズ36%の状況が1965年には日本以外のラワン輸出国がストックサイズの分野に進出した結果ドアスキン80%とドア部門を主体とした輸出になっている。

ラワン合板を除く硬木合板の1961年及び1964年の各部門別輸入状況は第3表の示す如くモビールホーム部

第3表 硬木合板(除ラワン合板)需要部門別輸入状況(%)

需 要 部 門	1960		1964	
	総輸入	日 本	総輸入	日 本
ド ア ー	27	33	22	26
モビールホーム	18	26	21	30
ウォールボード	14	17	13	11
キャビネット、家具、他	41	24	44	33

1964年インダストリコン社調査報告

門が輸入全量の面で18%から21%、日本からの硬木合板では26%から30%と相当の伸長を示し、輸入硬木合板の最も大きな需要部門となっている。次いでそのシェアは多少減少しているがドアスキンが主要部門となっている。

北海道材の各需要部門別への供給状況を最近9ヶ月間の出荷状況から見ると、ドアスキン約30%、モビールホーム、ウォールボード部門約53%、キャビネット向けを主体とし家具その他部門、約14%と米国総輸入及び日本よりの輸入の部門別状況に比しドア部門及びモビールホーム、ウォールボード部門のウエイトが可成り高い状態になっている。モビールホーム部門とウォールボード部門の分別は出荷面からでは困難であるが、日本からの硬木合板輸入がモビールホーム部門に可成り高い点から推して、道材合板も此の部門による消費が主体となっているものと推察されるのである。

最近の出荷状況から樹種別に需要部門別状況を推定すると、ドア部門ではセン合板17%、カバ合板50%シナ合板40%、ウォールボード、モビールホーム部門にはセン合板60%、カバ合板30%、シナ合板45%、ナラ合板85%、キャビネット向けを主とした家具その他部門にはセン合板16%、カバ合板15%となっている。

4. 各需要部門に於ける北海道合板の状況

1964年インダストリコン社調査によるとフラッシュドアの生産は1960年以来約20%程度増加したが、ラワン合板を除く硬木合板は安価なハードボードの進出により消費は4%程度の上昇に止り、この部門に於ける占有率も1960年の45%から1964年36%に低下したと報告されている。然し米国産のドアスキン生産の著しい減少により、むしろ輸入合板の使用は増加し、特に日本からの輸入は可成り増加する結果となっている。

センドアスキンは年間約2千万平方呎程度をカリフォルニア地域に約60%、ガルフ地域に約30%と殆んど両地域に出荷されている。最近数年間の出荷数量も余り変りなく推移している。

ドアスキンに使用する硬木合板の中で最も大きな分野を占める樹種はラワン合板に次いでカバ合板で、全合板使用量の約25%、ラワン合板を除く硬木合板の約60%となっている。カバ合板の供給は米国産、日本、カナダ、フィンランドであるがフィンランドのカバ合板は家具用合板で殆んど此の部門への供給はなく、米国産としてはドアスキンの数量が激減している点から推してドアスキンの供給は北海道及びカナダが殆んど主体をなしていると判断される。カナダのカバ合板米国輸入も前述した如くその伸びに停滞の傾向が見られるのに対し、北海道からの出荷状況は1962年1.3千万平方呎、1963年2千万平方呎1964年3.7千万平方呎、1965年5.2千万平方呎と着実な増加を計っている。北海道が太平洋岸地域に対し立地的に優位にあり、品質面でもカナダ品より可成り高く評価されている点から推して今後もそのシェア拡大の可能性を十分に持っているものと思われる。1965年のカバドアスキンの出荷先はカリフォルニア地域約30%、太平洋岸北部46%、ガルフ地域14%、大西洋岸地域10%となっている。尚カバスキン他樹種に比し有利な点として他樹種よりもビル建築、商店、事務所等一般住宅、モビールホーム以外に広く使用される分野を持っていることである。

シナ合板のこの部門に於ける需要状況はセン合板と同様カリフォルニア地域50%、ガルフ地域44%と殆んど

両地域で消費され、1965年は1.2千万平方呎の出荷となっている。現在シナドアスキンにカバ或はメープル類似のプレフィニッシュ仕上げによりドアを生産している工場もあり、この面のプレフィニッシュが発展した場合は十分に期待し得る有望樹種と思われる。

次にウォールボード及びモビールホーム部門であるが、この部門の需要は主として住宅建築の推移、モビールホーム生産台数の推移に直接関連がある。住宅建築は1961年以降150~160万戸の年間水準を維持して来たが今年は120万戸程度に低下するものと予想され、最近では年率100万戸を割り込む月間建築高を示しているのに対し、モビールホームは生産台数も1960年14万台が1965年29万台と倍増し、今年も更に活況を示している状況である。

ウォールパネルとして使用される樹種は高級クラスとしてウォルナット、マホガニー、ローズウッド、マホガニー等が有り、一般クラスとしてカバ、セン、エルム、オーク等道材合板は此のクラスにある。米国産硬木合板の大部分が此の部門の需要に向けられているものと思われ、インダストリコン社の調査報告でもウォールパネル需要に対し、90%強が国産合板が使用され、輸入合板は10%以下となっている。更にモビールホーム部門ではプレフィニッシュの発達プリント合板の進出を後退させラワンを除く硬木合板の使用率は約45%で日本からの輸入合板使用比率はウォールパネル部門で使用輸入合板の約60%、モビールホーム部門では2/3を占めていると報告されており、カバ、セン合板の使用率が可成り高いことを示している。特にプリフィニッシュの発達により従来低級品と見られていたラステックグレード合板が現在は主としてカバ合板に於て急速に需要が拡大され、今後も現在の品質と異なる種々の合板が開発され、需要を喚起することが期待される点プレフィニッシュの発展が硬木合板消費の増大に可成りの影響を及ぼすものと思われる。

北海道材のこの部門への供給は出荷状況から推し約53%となっている。米国に於けるこの部門の使用樹種としてはカバ合板が可成り高い占有率を持っていることは前述した通りであるが道材カバ合板の出荷面でもラステックグレード、BB/CCグレードの輸出が1965

年後半から急増し、3/16"、1/4"合せて1964年約2百万平方呎1965年14百万平方呎1966年1～9月で18百万平方呎とカバ合板全輸出量増加の主体となり、この部門向と推定される1964年の出荷約35百万平方呎の約40%、1966年1～9月出荷約33百万平方呎の約55%となっている。仕向先は殆んど全地域に広がっているがガルフ地域が約40%と主体をなしている。

センはその伸びが全体として停滞しているがこの部門に出荷される数量は他樹種に比して大きく年間約6千万平方呎、セン全出荷量の約60%と主体をなしている。仕向先は大西洋岸地域は殆んどなく、カリフォルニア、ガルフ地域が主体となっている。

プレフィニッシュの発達により増加し、今後もドアースキン同様期待し得る合板はシナ合板の主としてモビールホーム部門に於ける需要である。現在の出荷状況では3/16"、1/4"が約50%を占め1965年13百万平方呎が大西洋岸地域に3/16"を主体として約50%、ガルフ地域に1/4"を主体として約25%向けられている。

ナラ合板もモビールホーム部門を主体として増加傾向にあり、1965年約9百万平方呎、ナラ出荷量の97%と大部分を占め、カリフォルニア地域を主体に出荷されている。

米国の硬木合板輸入がキャビネット、家具を主としたその他部門が可成り高い比率を占めているが、北海道合板は3/4"ランバーコア、ベニヤコアを主体として約14%と他部門に比して、この部門への出荷は低率となっている。1965年の出荷はセン合板ランバーコア約8百万平方呎、ベニヤコア約7百万平方呎、カバ合板ランバーコア約13百万平方呎とこの部門向の主体となっている。尚この部門には米国産ガム、フィンランドカバ、イタリアポプラ等の合板が主体となっていると思われるが適材シナ、カバカットサイズ合板開拓の余地があると思われる今後の課題として調査、

研究を要する分野である。

5. 今後の米国合板需要の背景

以上述べた如く合板需要の背景として直接には住宅建築、モビールホーム生産、キャビネット、家具の生産状況があり、間接的にはプレフィニッシュの発展がある。住宅建築の現況は前述の如く金融、金利の影響を主因として急速に低下しているが、米国人口の年令層の状態から推して1970年には結婚適令人口が大巾に増加、従って住宅需要が従来以上に大きくなることが期待出来る。一般的には住宅需要は1968年から始まり1970年にピークとなると予測されている。モビールホームは米国の一般傾向としてレジャーに対する時間的余裕、支出増加に支えられトラベルトレラーの需要は益々増加すると期待され、大型モビールも産業分野の利用拡大が期待され現在でも住宅状況とは無関係に伸びている状況である。モビールホームに消費される合板は住宅に比し非常に高く、この産業の消長が米国硬木合板消費に与える影響は極めて大きいのである。家具、キャビネットの需要は住宅、モビールホームと密接な関連にあり、南部門の伸長は当然家具、キャビネット用合板の需要増に連なることを意味する。

以上総合して米国の硬木合板需要は将来に向って相当に伸びる基調があり、此の見方が一般常識とも言えるのである。此の様な需要背景に対し道材合板がプリント、ラワンプレフィニッシュ等の競合品の中で伸びるためには当然価格、品質、販売方式等の外に、プレフィニッシュの発展に即応して従来の品質合板のみに固執せず、新しい需要を創造する努力と、価格及び数量を長期的に安定した姿で供給する態勢を整えることが必要である点を特に強調したい。

- 北海道輸出合板販売株式会社

常務取締役 -